

6月3日(金)に、今年度で3回目となる自由研究指導法研修会を行いました。講師として、印西市立いには野小学校の坂本文則先生、八街市立八街中央中学校の東城孝教頭先生をお招きし、ご指導をいただきました。とても実践的でためになる講義を行っていただきました。

また、役員会後は研究員集会も行われ、各部会とも、提案に向けて充実した検討の場となりました。8月の印教研集会がとても楽しみです。



自由研究指導法研修会を振り返って

四街道小学校 小林 葉子

「自由研究指導法」として、自由研究の取りませ方や審査員の見る観点などを学びました。私は今まで「自由研究」といったら「やりたい人だけやる」というイメージがあり、「自由にさせる研究」として捉えがちでした。しかし本来は「指導してこそその研究」であり、子どものひらめきや探求への意欲をさらに伸ばしていけるよう、教師が支援しつつ指導していくべきものだと感じました。



この研修会で驚いたことは、自由研究は年間を通して行っていくべきものであるということです。私自身



も、自由研究は夏休みの宿題として出すことが多く、特別な指導はしてきませんでした。しかし、教師側が自由研究の話をしたり、参考となる資料を教室に揃えておくなど、少し環境を整えるだけでも子どもたちの意欲を喚起できると思いました。小さなことに興味・関心を示す子ども達であるからこそその目を大事にし、科学の芽を摘まないよう教師も様々な手だてを講じたいです。

私も小学生のころ、父親と共に毎年自由研究に取り組んでいました。今思うと、一緒

に一つの作品を作り上げるということは、単純そうで実はとても意味のあるものだったと思います。試行錯誤を繰り返しながら一緒に研究するという長い時間は、中学校では得られませんでした。そこで私も小学校教員として、子どもたちに理科の楽しさや探究活動のおもしろさを伝えていだけでなく、保護者の方々にも「子どもと共に何かをする時間は意外と残り少ない」ということを伝えていきたいと思

います。そして、自由研究に取り組む児童が増え、科学者のたまごが増えるように指導していきたいと思

